

文学研究科の教員の養成の目標

<文学研究科 総合人文学専攻>

文学研究科 総合人文学専攻では、基礎となる関西大学文学部において、「幅広い教養」を土台とした「深い専門性」を身に付け、人文学各分野の専門性とそれを俯瞰する総合性を兼ね備えた21世紀型市民として、これまでの人類の営為や人間社会の有り様を学び、検討し、捉え直すことを通じて、新しい時代にふさわしい人間像を探求し、かつ新しい時代を切り拓き、新しい価値を創造することで社会に貢献できると判断された学士（文学）の学位授与者を対象に教員養成を行う。具体的には、人文学各分野の専門教育と学際的教育を有機的に構成し、豊かな学識と研究能力を兼ね備えた研究者、及び高度で多様な知識を身に付けて現代社会で活躍できる専門職業人の育成という教育目標のもと、（1）人文学各分野の研究者もしくは高度専門職業人として活動するために必要な専門知識・技能を身に付け、それらを活用して課題を解決していくことができる能力、（2）「考動力」を発揮して、自らの課題をグローバルな視野に立って見出し、人文学の専門的知見と方法に照らして探求し、自らの知的成果を論理的に表現することができる能力、（3）人文学の専門家としての自覚を持ち、未解決の課題に主体的に取り組む姿勢をそれぞれ身に付けた高度専門職業人としての教員を養成する。また修士の学位にふさわしい、柔軟かつ応用力を伴った教科及び生徒指導の実践的指導力により、学校現場で対峙するさまざまな事象や課題の解決にその力量を発揮し、人文学に関する専門的な学術活動における積極的な対人コミュニケーション等を通じて育まれた豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情により、学校経営・学級経営等を力強く牽引していくことのできる、将来の管理職候補としての基盤となる資質・素養を育成する。

(文学研究科 総合人文学専攻 中専修免 国語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。中学校専修免許「国語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする、(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う、(3)言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、わが国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うなど、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ 国語国文学専修：上代から現代までの各時代の日本の文学と言語を対象に、上代文学、中古文学、中世文学、近世文学、近代文学、国語学の各研究分野においてそれぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 高専修免 国語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「国語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする、(2)生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす、(3)言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、わが国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うなど、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ 国語国文学専修：上代から現代までの各時代の日本の文学と言語を対象に、上代文学、中古文学、中世文学、近世文学、近代文学、国語学の各研究分野においてそれぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 中専修免 英語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。中学校専修免許「英語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)外国語（英語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語（英語）で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語（英語）の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語（英語）を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うなど、外国語（英語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語（英語）による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ 英米文学英語学専修：英語圏の文学と言語を対象に、文学分野では長編小説、短編小説、詩、劇、児童文学、日英比較文学、ジェンダー論、文学翻訳、文学理論など、言語学分野では音声学、英文法、日英語対照、認知言語学、メタファー論、構文理論、語彙意味論、語用論、異文化間コミュニケーション論、翻訳論などの各研究分野においてそれぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 英米文化専修：英米圏の人文学分野における文化研究（Cultural Studies）の主流化を踏まえて、アメリカ、イギリスを中心とする英語圏の文化を、既存のディシプリンに留まらない広い視野から総合的、学際的に研究することを目的とし、美学、倫理、ジェンダー、人種とエスニシティ、環境哲学、エコクリティシズム、比較文化論、飲食文化論、その他より広い文化的現象を研究分野の射程に入れて、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判

的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 高専修免 英語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「英語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)外国語（英語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語（英語）で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語（英語）の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語（英語）を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うなど、外国語（英語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語（英語）による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ 英米文学英語学専修：英語圏の文学と言語を対象に、文学分野では長編小説、短編小説、詩、劇、児童文学、日英比較文学、ジェンダー論、文学翻訳、文学理論など、言語学分野では音声学、英文法、日英語対照、認知言語学、メタファー論、構文理論、語彙意味論、語用論、異文化間コミュニケーション論、翻訳論などの各研究分野においてそれぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 英米文化専修：英米圏の人文学分野における文化研究（Cultural Studies）の主流化を踏まえて、アメリカ、イギリスを中心とする英語圏の文化を、既存のディシプリンに留まらない広い視野から総合的、学際的に研究することを目的とし、美学、倫理、ジェンダー、人種とエスニシティ、環境哲学、エコクリティシズム、比較文化論、飲食文化論、その他より広い文化的現象を研究分野の射程に入れて、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研

究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 中専修免 ドイツ語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。中学校専修免許「ドイツ語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)外国語(ドイツ語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(ドイツ語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(ドイツ語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語(ドイツ語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うなど、外国語(ドイツ語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(ドイツ語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ ドイツ文学専修：ドイツ語圏の言語・文学・文化を対象に、8世紀から19世紀までの幅広い時代及び主として20世紀以降の時代の各研究分野においてそれぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 高専修免 ドイツ語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「ドイツ語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)外国語(ドイツ語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(ドイツ語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(ドイツ語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(ドイツ語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うなど、外国語(ドイツ語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(ドイツ語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ ドイツ文学専修：ドイツ語圏の言語・文学・文化を対象に、8世紀から19世紀までの幅広い時代及び主として20世紀以降の時代の各研究分野においてそれぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 中専修免 フランス語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。中学校専修免許「フランス語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)外国語（フランス語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語（フランス語）で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語（フランス語）の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語（フランス語）を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うなど、外国語（フランス語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語（フランス語）による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ フランス文学専修：フランス文学とフランス語学を研究対象に、文学分野ではフランス中世から 20 世紀を経て現代に至る韻文物語、散文による小説やエッセー、詩、演劇、文学批評、文芸思潮、宗教、哲学など、語学分野では現代フランス語のさまざまな現象について一般言語学的観点から、個別の具体的な語法の意味や機能についての考察と分析を行うとともに、言語と文化、言語と社会に関わる諸処の問題について、言語研究と関係諸科学（文学理論・哲学・社会学・認知科学など）との関わりについて理解を深めるなど、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの 3 つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併

せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 高専修免 フランス語)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「フランス語」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)外国語（フランス語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語（フランス語）で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語（フランス語）の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語（フランス語）を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うなど、外国語（フランス語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語（フランス語）による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ フランス文学専修：フランス文学とフランス語学を研究対象に、文学分野ではフランス中世から 20 世紀を経て現代に至る韻文物語、散文による小説やエッセー、詩、演劇、文学批評、文芸思潮、宗教、哲学など、語学分野では現代フランス語のさまざまな現象について一般言語学的観点から、個別の具体的な語法の意味や機能についての考察と分析を行うとともに、言語と文化、言語と社会に関わる諸処の問題について、言語研究と関係諸科学（文学理論・哲学・社会学・認知科学など）との関わりについて理解を深めるなど、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの 3 つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判

的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 中専修免 社会)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。中学校専修免許「社会」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ 哲学専修：哲学・哲学史、哲学・倫理学、比較宗教学の各分野の古典や重要文献を読みこなす研究、学問横断的に現代的なトピックを考察する学際的な研究、フィールドワークを含む研究などを対象に、哲学・哲学史では古代ギリシアに始まり現代に至るまで西洋哲学の中で論じられてきた事柄（世界、人間存在、真理、自己、他者など）を、歴史の変遷を顧みながら考察する、哲学・倫理学研究では善・正義・義務・幸福など古代から現代に至る伝統的問題について根源から問い直す哲学的考察を深めるとともに、生命倫理学や環境倫理学をはじめとする応用倫理学を参照して現代固有の具体的問題を探求する、比較宗教学では、キリスト教、仏教、イスラームの世界3大宗教をはじめとして、世界中の多種多様な宗教について、各宗教が持つ聖典や教義の比較思想的研究や文献学的研究に留まらず、宗教儀礼や教団に関する実証的研究、聖地調査などフィールドワークを中心とした宗教人類学的研究、宗教学の諸理論や方法論の研究など、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 芸術学美術史専修：芸術学・西洋美術史、日本及東洋美術史を研究対象に、芸術学・西洋美術史では美学・芸術学、パフォーマンスアート（演劇、音楽）、西洋・世界美術史（絵画、彫刻、建築、工芸他）、映像、メディア、デザイン、ファッション、作品修復など、日本及東洋美術史では絵画、彫刻、建築、工芸をはじめとする日本・東洋のさま

ざまな美術作品を対象とした美術史上の諸問題（作品分析、作家論、時代様式など）など、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。

- ・ 日本史学専修：古代史・中世史・近世史・近現代史・考古学・民俗学・文化遺産学のコースに分かれ、日本の政治・経済・社会・思想・宗教及び文化遺産などの多様なテーマを、主として歴史という時間軸に沿って、幅広い視点から総合的に調査研究を行っている。古代史・中世史・近世史・近現代史など主に文献史料を扱う分野と、考古学・民俗学など主に出土遺物・遺跡や現代に残る伝統儀礼・習俗などを調査する分野が用意され、文化遺産学コースでは、日本を中心とする文化遺産をはじめ、地域に残る有形無形の文化財について学んでいる。どのコースも必要な史資料の調査や収集と分析方法などを修得し、先行する関連調査・研究の諸事例の検討を通じて、問題意識や方法論の深化を図って研究成果をまとめることを目標としており、それぞれの視点から、人類の過去・現在・未来を考える力を養う。これにより、歴史的な見方・考え方による課題の追求・解決を指導することができる社会科教員の養成を行っている。
- ・ 世界史学専修：世界の一体化（グローバル化）と多極化が急速に進行する中で、観光や留学を通じて国境・地域を越えた文化交流が活発になると同時に、地域間の経済格差、環境破壊、民族紛争、感染症の流行、移民問題、マイノリティとの共生といった人類共通の課題が深刻さを増している現状にかんがみ、現代世界の成り立ちを深層から理解するために世界史学専修では、従来のかんがみにとどまらない視点や手法で、常識にとらわれない広い視野から、古代から現代にわたる人類の過去をみつめ、現在の問題を探究して独自の歴史像をつくり、未来を展望する力を養う。そのため、東洋史研究・エジプト学研究・西洋史研究という専修科目を設け、東洋史研究では主に西アジア史、イスラーム世界史、7～10世紀の東ユーラシア史、東西文化交流史など、エジプト学研究ではエジプト学を中心に古代地中海とオリエントの歴史（ギリシア、ローマ、フェニキア、メソポタミアなど）など、西洋史研究では西洋近現代史、史学思想史、ロシア近世史など、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。これにより、歴史的な見方・考え方による課題の追求・解決を指導することができる社会科教員の養成を行っている。
- ・ 地理学専修：自然地理学、人文地理学、歴史地理学、地誌学・地理教育を研究対象に、自然地理学では、現在または過去数百万年間の自然現象または人間活動を、主に地球史の観点から、GNSS計測、測量、地理情報システム、粒度分析、デジタル顕微鏡計測など種々の研究手法を用いて解き明かす、人文地理学では、フィールドワークやデータ解析などの分析手法・技術を身に付け、人口地理学、経済地理学、社会地理学、文化地理学、都市地理学など、多様な分野で現代の日本・アジア諸国・先進国を中心に社会・経済現

象を分析する、歴史地理学では、都市・村落・文化・民俗・祭祀・城下町などを主たる対象として、時間と空間を同時に視野に入れ地域を歴史的に研究する、地誌学・地理教育学研究では、地誌学（地域研究）と地理教育について、地誌学ではフィールドワークを重視し、アジア・日本、発展途上国、農業・農村や都市・交通現象を主たる対象に、環境との関わりを重視し、背景となる地理思想や歴史的発展過程も含め、構造、変化プロセスなどを明らかにし、総合的な地誌の記述と分析を行う、地理教育では技術論に矮小化することなく、地理歴史科・社会科専修免許取得を視野に入れ、フィールドワークと多面的な文献研究を融合させ、総合学習、国際理解、開発教育、環境問題等、新領域へのアプローチなど、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。

- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 高専修免 地理歴史)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「地理歴史」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ 日本史学専修：古代史・中世史・近世史・近現代史・考古学・民俗学・文化遺産学のコースに分かれ、日本の政治・経済・社会・思想・宗教及び文化遺産などの多様なテーマを、主として歴史という時間軸に沿って、幅広い視点から総合的に調査研究を行っている。古代史・中世史・近世史・近現代史など主に文献史料を扱う分野と、考古学・民俗学など主に出土遺物・遺跡や現代に残る伝統儀礼・習俗などを調査する分野が用意され、文化遺産学コースでは、日本を中心とする文化遺産をはじめ、地域に残る有形無形の文化財について学んでいる。どのコースも必要な史資料の調査や収集と分析方法などを修得し、先行する関連調査・研究の諸事例の検討を通じて、問題意識や方法論の深化を図って研究成果をまとめることを目標としており、それぞれの視点から、人類の過去・現在・未来を考える力を養う。これにより、歴史的な見方・考え方による課題の追求・解決を指導することができる地歴科教員の養成を行っている。
- ・ 世界史学専修：世界の一体化（グローバル化）と多極化が急速に進行する中で、観光や留学を通じて国境・地域を越えた文化交流が活発になると同時に、地域間の経済格差、環境破壊、民族紛争、感染症の流行、移民問題、マイノリティとの共生といった人類共通の課題が深刻さを増している現状にかんがみ、現代世界の成り立ち

を深層から理解するために世界史学専修では、従来の枠組みにとどまらない視点や手法で、常識にとらわれない広い視野から、古代から現代にわたる人類の過去をみつめ、現在の問題を探究して独自の歴史像をつくり、未来を展望する力を養う。そのため、東洋史研究・エジプト学研究・西洋史研究という専修科目を設け、東洋史研究では主に西アジア史、イスラーム世界史、7～10世紀の東ユーラシア史、東西文化交流史など、エジプト学研究ではエジプト学を中心に古代地中海とオリエントの歴史（ギリシア、ローマ、フェニキア、メソポタミアなど）など、西洋史研究では西洋近現代史、史学思想史、ロシア近世史など、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。これにより、歴史的な見方・考え方による課題の追求・解決を指導することができる地歴科教員の養成を行っている。

- ・ 地理学専修：自然地理学、人文地理学、歴史地理学、地誌学・地理教育を研究対象に、自然地理学では、現在または過去数百万年間の自然現象または人間活動を、主に地球史の観点から、GNSS計測、測量、地理情報システム、粒度分析、デジタル顕微鏡計測など種々の研究手法を用いて解き明かす、人文地理学では、フィールドワークやデータ解析などの分析手法・技術を身に付け、人口地理学、経済地理学、社会地理学、文化地理学、都市地理学など、多様な分野で現代の日本・アジア諸国・先進国を中心に社会・経済現象を分析する、歴史地理学では、都市・村落・文化・民俗・祭祀・城下町などを主たる対象として、時間と空間を同時に視野に入れ地域を歴史的に研究する、地誌学・地理教育学研究では、地誌学（地域研究）と地理教育について、地誌学ではフィールドワークを重視し、アジア・日本、発展途上国、農業・農村や都市・交通現象を主たる対象に、環境との関わりを重視し、背景となる地理思想や歴史的発展過程も含め、構造、変化プロセスなどを明らかにし、総合的な地誌の記述と分析を行う、地理教育では技術論に矮小化することなく、地理歴史科・社会科専修免許取得を視野に入れ、フィールドワークと多面的な文献研究を融合させ、総合学習、国際理解、開発教育、環境問題等、新領域へのアプローチなど、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学で

は、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。

(文学研究科 総合人文学専攻 高専修免 公民)

13 専修を擁する総合人文学専攻では、学部の専門教育における学びから専門分野の研究をさらに深化させるとともに、本専攻が持つ総合性・独創性を生かし、専修の枠を越えて広く人文学の諸分野にアプローチする、あるいは既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を展開するなど、研究者養成および高度専門職業人双方の育成に対応したカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「公民」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を下記の専修において養成する。

- ・ 哲学専修：哲学・哲学史、哲学・倫理学、比較宗教学の各分野の古典や重要文献を読みこなす研究、学問横断的に現代的なトピックを考察する学際的な研究、フィールドワークを含む研究などを対象に、哲学・哲学史では古代ギリシアに始まり現代に至るまで西洋哲学の中で論じられてきた事柄（世界、人間存在、真理、自己、他者など）を、歴史の変遷を顧みながら考察する、哲学・倫理学研究では善・正義・義務・幸福など古代から現代に至る伝統的問題について根源から問い直す哲学的考察を深めるとともに、生命倫理学や環境倫理学をはじめとする応用倫理学を参照して現代固有の具体的問題を探求する、比較宗教学では、キリスト教、仏教、イスラームの世界3大宗教をはじめとして、世界中の多種多様な宗教について、各宗教が持つ聖典や教義の比較思想的研究や文献学的研究に留まらず、宗教儀礼や教団に関する実証的研究、聖地調査などフィールドワークを中心とした宗教人類学的研究、宗教学の諸理論や方法論の研究など、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。
- ・ 芸術学美術史専修：芸術学・西洋美術史、日本及東洋美術史を研究対象に、芸術学・西洋美術史では美学・芸術学、パフォーマンスアート（演劇、音楽）、西洋・世界美術史（絵画、彫刻、建築、工芸他）、映像、メディア、デザイン、ファッション、作品修復など、日本及東洋美術史では絵画、彫刻、建築、工芸をはじめとする日本・東洋のさま

ざまな美術作品を対象とした美術史上の諸問題（作品分析、作家論、時代様式など）など、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめる。

- ・ 教育学専修：将来教職員や高度専門職員の人材養成を前提に、教育という現象をミクロ・マクロ・グローバルの3つのレベルで考究していくうえで必要となる概念や考え方を、国内外の多様な文献資料を使いながら探求していくことを目標に、教育文化学と学校教育学を対象に、それぞれの研究課題に取り組み、総合的な視点から整理分析し、研究成果をまとめる。教育文化学ではジェンダー研究、教育人類学、エスニシティ研究、コミュニティ教育、生涯学習、教育政策・行政学、教育哲学の各分野の先行研究の批判的考察を行い、教育社会学をベースにして新たな理論構築を行うとともに、教育政策研究として現在進行形の具体的な政策を取り上げ、その形成過程や背景の特質なども併せて検討することで、教育の政策研究に求められる視点を明らかにする。学校教育学では、実際に複数の学校や学校外の施設にフィールドワークに入り、エビデンスに基づく調査研究を重視して、構成主義的学習理論や活動理論などの理論との照合を行い、新たな授業づくり、学校づくりを構想する。